

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、5月3-4日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0.25-0.50%から0.75-1.00%に0.50%引上げることを決定するとともに、継続的に利上げを行う意向を示しました。また、6月1日から国債、政府機関債、政府機関発行の住宅ローン担保証券(MBS)の保有資産縮小を始めることを決定しました。

声明文では、ロシアによるウクライナ侵攻について「インフレを押上げる圧力を生み出す」とし、中国での新型コロナウイルス関連の都市封鎖が「供給網の混乱に輪をかける」ことから「インフレリスクを注意深く観察している」とインフレが高止まりする可能性を指摘しました。その上で、「金融政策の適切な引締めスタンスによって、インフレ率は目標の2%に戻り、労働市場は力強さを維持できる」との考えを述べ、政策金利の目標レンジの引上げを継続することが適切との見方を示しました。

また、声明文と共に「FRBバランスシートの規模縮小プラン」が発表され、6月から米国債などの保有資産を圧縮する「量的引締め」を始めることを決定しました。

FOMC後の記者会見では、パウエルFRB議長は「インフレはあまりにも高い」との認識を示しました。高インフレが引き起こしている問題を「われわれは理解している」とし、引下げに向けて「委員会では、今後数回の会合で0.5%ずつの追加利上げが検討されるべきだ」という感触が広がっている」と語りました。一方で、0.75%の利上げは「積極的に検討していない」と言明しました。また、「米経済は非常に堅調であり、金融引締めに対応できる体制にある」との見方から、金融政策の引締め後に自動的に景気後退が起こればと考えていないとし、景気の先行きに関しては「ソフトランディング(軟着陸)かそれに準じるランディングとなる可能性が高そうだ」と述べました。

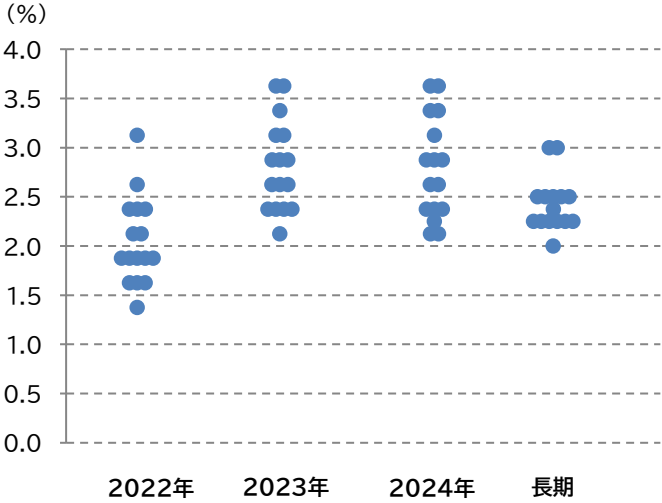
図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2022年	2023年	2024年	長期見通し
GDP成長率	2.8%	2.2%	2.0%	1.8%
(前回12月)	4.0%	2.2%	2.0%	1.8%
失業率	3.5%	3.5%	3.6%	4.0%
(前回12月)	3.5%	3.5%	3.5%	4.0%
PCEデフレーター	4.3%	2.7%	2.3%	2.0%
(前回12月)	2.6%	2.3%	2.1%	2.0%
コアPCEデフレーター	4.1%	2.6%	2.3%	-
(前回12月)	2.7%	2.3%	2.1%	-
FFレート	1.875%	2.750%	2.750%	2.4%
(前回12月)	0.875%	1.625%	2.125%	2.5%

*GDP成長率、PCEデフレーター、コアPCEデフレーターは各年10-12月期の対前年比、失業率は10-12月期の平均値、FFレートは各年末ベース

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)



出所:FRBより弊社作成

市場の反応

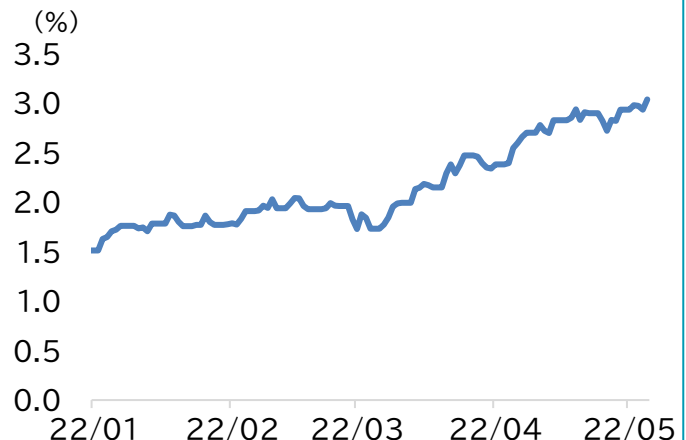
パウエルFRB議長がFOMC後の記者会見で、0.75%の利上げには慎重な姿勢を示したことや6、7月会合でも0.5%ずつの利上げを実施することを示唆したことで一時的に金融政策の不透明感が取り除かれ、4日の米国株式市場ではNYダウが前日比932.27ドル高の34,061.06ドルに上昇しました。また、記者会見では経済に中立な金利水準を2～3%と述べたことで、市場で懸念されたほど金融引締め姿勢が強くはないと捉えられたことから、短い年限の債券を中心に買い戻され、米国10年国債利回りは前日比3.68bp低い2.93%で終わりました。

しかし5日には、英国中央銀行が利上げの決定や景気失速への警戒感を表明したこと等を受けて、改めて金融政策引締めへの警戒感や高インフレによる景気の先行きへの懸念が強まり、NYダウは前日比1063.09ドル安の32,997.97ドルとなりました。また、米国10年国債利回りも5日には一時3.10%まで上昇し、前日比10.21bp高い3.04%で終わりました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2022/1/1～2022/5/5、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCでは、22年ぶりとなる0.5%の利上げを決定し、その後の記者会見では今後2会合でも同じ幅の利上げを実施することを示唆する等、インフレ抑制への強硬姿勢を明確化しました。今後も、FRBは約40年ぶりの水準に達したインフレの封じ込めを優先し、当面金融引締めの手を緩めないと考えます。今回、パウエルFRB議長は雇用、需要の強さを背景に景気を後退させずインフレを抑えられることに自信を示しましたが、資源不足や物流の混乱に対しFRBがどこまで対処できるかは不明瞭であること、すでに米家計がインフレに蝕まれつつあること等から市場はFRBの金融政策に対しやや懐疑的であり、それに伴い金融市場を取り巻く環境も不安定な展開が想定されます。当面は、インフレの鎮静化が先か、景気の腰折れが先かの見方に金融市場の行方が左右されるとみています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
5/25	FOMC議事録(5月分)
5/22～5/26	世界経済フォーラム(ダボス会議)
6/9	ECB理事会
6/14～6/15	米連邦公開市場委員会(FOMC)

出所:Bloomberg